

【第 34 回大会若手部会シンポジウム記録】

テーマ：若手社会人の主張～就職活動・仕事の経験から～

折本 美祐子 (岩手大学大学院)

吉谷地 康平 (岩手大学大学院)

現代行動科学会第 34 回大会における若手部会シンポジウムは、「若手社会人の主張～就職活動・仕事の経験から～」と題し、心理職や大学院生、営業職、事務職と各分野で活躍されている 34～37 期の若手会員をシンポジストとしてお迎えした。シンポジストの方々には、若手社会人として、進路選択や就職活動、仕事についての思いや考えをご自身の経験から主張していただき、若者の進路選択や仕事観について議論した。

今回の企画は、学部生に興味関心を持って参加してもらいやすいテーマを設定した。学部生にとっては、一歩先に社会に出ている若手社会人のお話を聞くことができる貴重な機会となり、自身の進路等にも役立ててもらおうように企画説明を行った。シンポジストとしてお招きしたのは、34 期生の佐々木璃奈さん、36 期生の坂本一真さん、37 期生の中沢優雅さん、37 期生の向中野あゆみさんであった。

シンポジストの方々にお話をさせていただく前に、岩手大学人文社会科学部人間科学課程・人間文化課程の学部生 192 名に対して、事前に実施した就職活動や仕事観に関するアンケート調査の結果を紹介した。就職活動経験者を対象に行った、就職活動をしていて困ったことへの回答には、志望動機がまとまらない、就職活動への意欲がわからない、就職活動の費用がかかるという答えが多い結果となった。就職先を決める際に重要視する点については、自分のやりたい仕事ができる、職場の雰囲気が良い、勤務制度・福利厚生が良いという答えが多い結果となった。また、就職活動を始める前に不安に思っているまたは、思っていたことへの回答は、どのような職業に適しているか分からない、就職活動の仕方が分からない、就職活動への意欲がわからないという答えが多い結果となり、実際に就職した後の仕事や生活への不安については、仕事についていけるか、上司や先輩との人間関係、仕事に対するモチベーションの維持についての不安が大きいことがうかがえた。

続いて、自由記述によるシンポジストの方への質問を紹介した。まず、就職活動に関しては、自分に適している職業の見つけ方、就職活動を意識し始めた時期、就職活動をするうえで役に立つバイト、就職活動中、最も力を入れて取り組んだこと、気をつけたこと、就職活動中の失敗談とそこから得た教訓について質問があった。また、就職後に関しては、仕事をしていてやりがいを感じる時、就職前に思い描いていたものと現実との違い、大学時代の経験で職に就いてから活かされたこと、就職後の失敗談とそこから得た教訓、退職転職の可能性について質問があった。

その後、シンポジストの方々には、アンケートの結果も踏まえながら、後輩たちに伝えたいことを中心に、ご自身の経験から進路選択や就職活動、仕事についてお話していただいた。1 人目の佐々木さんからは、勤務していらっしゃる小児科病院と心理士の役割について、ご自信の進路選択について、具体的にお話いただいた。発表の最後には、進路に悩む後輩へ、心理職を目指す後輩へのアドバイスをいただいた。特に、心理職を目指す学部生や大学院生にとって、病院臨床の実際、心理職として働くことについて何うことのできる貴重な機会となった。

続いて、2人目の坂本さんからは、大学院の博士課程への進学を志望する立場からお話をいただいた。大学院への進学、また研究者として博士課程という進路を選択された道筋についてエピソードを交えながらお話いただいた。現在の大学院での充実した生活やご自身の勉学、研究活動、仕事などの充実した生活を過ごすために大切にしている5つのことを発表していただいた。特に、経験と研究活動の循環を大切にされているというお話は、行動科学の卒業生として目指すべき姿のように思われた。

3人目の中沢さんは、就職を経ての職業観の変化についてお話された。特に、営業職として働くことで感じた、県外出身者が岩手県内の企業で働くことの難しさについてお話された。発表はユーモアを交えながら、事前アンケートの学部生からの質問に答える形で、テンポよく進んだ。また、イメージのしづらい営業職の実態も話して頂き、これから就活を控えている学部生の進路観に大きな影響を与えて頂いたと考えられる。

最後のシンポジストである向中野さんからは、就職活動に関して、職種選択のきっかけ、公務員試験の勉強、終わらない就職活動の辛さをご自身の言葉でお話いただいた。また、現在の仕事の実際と目指したい社会人の姿、これからの目標についてもお話された。社会人1年目として職場で奮闘される姿や後輩に伝えたい自身の就職活動の反省点を赤裸々に語ってくださった。

4人のシンポジストの方々の発表後、フロアの参加者の方々から仕事のモチベーションや休日・余暇の過ごし方について話題が提供され、議論が進んでいった。短い時間であったが、若手社会人の特有の悩みや実状も共有され、行動科学を卒業した若手会員やこれから社会に羽ばたく学部生にとって有意義な時間を持つことができたと思われる。また、発表の中では、人とのつながりや縁の大切さについて話された。この現代行動科学会は、行動科学の卒業生や関係者が一堂に会する機会であり、学部生、若手社会人、社会でたくさんの経験を積まれた方々など様々な立場の人々が集結する。この機会を「行動科学人」がつながるための機会と捉え、今後も立場を飛び越えてつながりや縁を作っていくことが望まれる。そのために、今後も若手部会の企画として、学部生を巻き込み、若手社会人、若手会員として発信できることを考えていきたい。

最後に、シンポジウムの開催にあたり、お忙しい中貴重な経験をお話しいただいた4名のシンポジストの方々、並びに質疑応答にて議論を盛り上げてくださったフロアの参加者の方々に、深く感謝申し上げます。